1937年度接近の火星觀測報告 (3)

木 邊 成 麿 (在責)

6月 渡邊氏に依れば，1日には描かれて居る．然し2，3，4日の良シ1イングの日には不鮮明で，少し白い部分が，ボンヤリとする程度に過ぎない．10，11日兩日も同樣である．14日には幾分白さが增した樣であるが，特筆する程ではない．所が，17日 21^h 及び 23^h のスケチでは著しく光輝を增し，18日は30°～40° 角に白い部分が擴がり，特に中央部が白く出て居る．20，21，23日の觀測では，一層なほ白くなり，28日に到つては50° 角位の範圍に達して居る（極中心で）．一方，前田氏のも，10日には別段北極地方に異常はないが，17，18日頃から廣範な白い部分が北極中心に出來，その後角度は60° に迄達して居る．然し，渡邊氏と同樣に全體に白くは無く，火星の地肌の色が，一部に入り込んで居る．木邊氏のスケチも，12日迄は全く北極冠を認めなかつたのが，17日には白い雲樣のものが北極地方に見られ，擴さは50° 角位である．23，25日に到つて，その中に微かに見へて居た黑い部分が殆んど消へ失せ，非常に白く，60° 角に迫る程大きくなつて居る．伊達氏も，12日迄は北極地方が薄暗く，18日には明瞭でないが少し白く，19，20日のスケツチでは，40° 角位の擴がりを持つた白色部が北極に出來て居る．

7月 渡邊氏は6日にスケチして居る．依然白さは强いが，少し小さくなつた．前田氏のも同樣らしい．

木邊氏のは2日，8日は依然60°角も白く，25日には少し小さく，又白さも衰へて，割れた樣に黑い部分が喰い込んで居る．伊達氏は3日，6日に觀測して居るが，範圍は著しく縮小して，20°內外である．

以上が北極冠のスケチに顯はれた消長である．結局，4月に殆んど消失に近い狀態となり，其の頃から，極には薄い靄が屢々發生して，充分に見られなかつた樣である．5～6月には殘つて居たか，完全に消失したか，共に明言出來ない．とにかく，其の狀態が6月15日位まで續いて居た樣である．所が，6月17日前後から，突如として，北極に異變を生じ，擴大な白雲に蔽はれた．この白い部分が，火星面上に固着した極冠だとするのは早計だが，然し，低緯度地方

に見られる白雲と同じものでない事も明らかである．多分可なり恒久的な氣象條件の變移を物語る白雲であると考へて誤りは無からう．何故なれば，恒久的な極冠で無い記據としては，7月に入つて幾分縮少し，8月にも決して大きくない事から推定され，又單なる白雲でない事も，多くの白雲が長くて數日より同一場所を占めないのに對し，6月 17 日發生を發見してから以後は，縮少はしても，消失しなかつた事からして想像出來る．多分，其の下には，直接に見えては居ないが，極冠が結成されつつあつたと想像される．丁度この氣象の激變は火星秋分の20日前に當る事を附言して置く．

B. 南極冠　共同觀測に入つた當時，漸く南半球は春分前，春立ち初めた所である．然し，地球との相對位置の關係上，觀測期間中は南極は見られない樣になつて居たので，充分觀測出來なかつたが，3月～6月迄常に南方に少くとも60°位以上眞白な極冠が細く見えて居た．一見，稍青味を帶びて見へて居たが，それは火星面の橙赤色に對するコントラスト効果と思へばよからう．

Rima(罅裂)は各觀測者とも兩極共に確實には認められなかつたが6月23日に渡邊氏が北極冠の東方に白い雲塊の如きを認め，それと極冠の間に淡暗のバンドを認めてゐるが，これは勿論 Rima ではない．總じて，今回は北極冠附近に度々大きい雲塊を見たし，又火星表面に素晴らしい巨大な白雲や黃雲を認めたが，詳細は後章「火星面上の雲」の項にゆづる．

11. 表面の詳細　各模樣の經度緯度の變化や，大きさ等の測定，所謂運河と云はれるものの幅，長さの測定等の整理は到底1～2年の短時日で結果の出るものでなく，又發表しても專門の觀測者以外に何等興味のあるものでないからこれ等は止して，模樣や運河を今回の觀測によつてどう云ふ樣子を示したか，變化の有無，色彩の檢出等につき記す事とする．說明の便宜上火星面を 6 區分に分けて說明します．尙緯度の方は＋60°から－60°迄とす．

第1區　サベウス灣とエリスレウム海附近　(310°～10°)

サベウス灣――普通火星圖に見る如き輕くカーブした青灰色の灣で，その東端に火星面の經度0°を示すメリディアニ灣(俗にアリンの爪と稱される)が濃く鋭い入江を形造つてゐる．1935年の接近には口徑の小も一原因かも知れないが，木邊氏35糎にも爪形には見えなかつたが，今回は Seeing さへ靜かなれば15糎

～20糎の口徑にも明瞭に爪形が見られ，1935年度のマドロス・パイプ形と面白い變化を見せてゐる．東側の爪はサベウスから出てゐるが，西側の爪はこれと分離して淡い太い連鎖で繼がれてゐるのを知つたのも，今回の收獲の一つだらう．このサベウス灣の南方にパンドラ海峽があるが，1935年度には淡く或は全然見えなかつた位だつたが，今回は4名共(渡邊，前田，木邊，伊達)明確に認め，しかも非常に美事な半圓形を畫いてマ丨ガリチフエル灣に接續してゐるのが見られた．從つてパンドラ海峽とサベウス灣の間のデユ丨カリオニス地方は極めて美しく見られた．メリディアニ灣の東側の爪形の東に接して抱かれてゐる樣な恰好で東西に長い楕圓形のエドムがあるがこれも白く見られた．サベウス灣の灣口から南方へ延びたヘレスポンチュスは4人共認めてゐる．北方へ行つて330°+40°にあるイスメニウス湖は，其東方に續き有名なニロ・シルチスに接してゐるプロトニルス運河と共に相當濃く，ロ丨エルの如き單に圓形のものでなく東西に長い楕圓形に近いおたまじやくし形に認めてゐる．これから北方へアルノン運河によつて連結されたアレスサ湖は，渡邊，前田兩氏によつて確認された．

運河――サベウス灣から北方イスメニウス湖迄の間の砂漠地方には，所謂ロ丨エル派の運河が蜘蛛の巢の如くネツト・ワ丨クを示してゐる處で，東方から順次名を擧げると，サベウス灣の中央部から東地方へ走つたフィソン運河，同じ處から北方へ走つてイスメニウス湖へ入つてゐるエウフラテス運河の2本は渡邊，前田兩氏及小生によつて極く細い美しいキヤナルと確認した．アリンの爪からエウフラテスへ延びたオロンテス，イスメニウスへ延びたヒデケルの2運河は渡邊氏により同じく細いものに見られたが，小生はヒデケルを相當太く見てゐる．

アレスサ湖からアシダリウム海へ延びたカリルホ丨エ運河，ルナエ湖からマ丨ガリチフエル灣へ延びたオタサスⅡ，Ⅰ運河は共に四人の觀測者に見られた．

第2區　エリスレウム海及アシダリウム海　(10°～70°)

この邊は南半球にはエリスレウムと呼ぶ大海があり，北半球には唯一つの海アシダリウムがあつて，望遠鏡裡には大シルチス附近に劣らぬ見物である．又今回はアシダリウム海の南方からチトニウス湖附近東西へ長く延びた巨大な白

雲(或は霞)が見られたので，全火星面中最も興味を感じた地區である．可愛い赤い Disc 上に上方にはエリスレウム海，下方には蟬の脱け殼の樣な形をしたアシダリウム海が自轉に從つて種々に形態を變へ乍ら東から西へ廻轉する面白い樣，或は東西に長く棚引いた白霧が日毎に西方に延び乍ら發達し千切れ千切れになつて消失する興味あるフィチアは，吾々テレスコピストにのみ與へられた樂しみである．閑話休題．

赤道少し北から南方に向つて灣曲してパンドラ海峽に注ぐマーガリチフエル灣はアリンの爪と共に有名で，ここから前述のカンタブラス，オクサスの2運河及アシダリウム海と連絡するインダス運河が走出してゐる．この灣とパイレ地方を中間に西方に接してゐるのはエリスレウム大海で北方へ特に突出してゐる處はオーロラ灣と呼ばれ，今年はこの灣が持に獨立して濃く楕圓形を呈し，この南方のネクタリス灣附近の濃い楕圓形の入江と共に2つの楕圓形の如く見え，大海と云ふ感じがしなかつた．それがため接近最初の視直徑の小さい頃よく西隣するソリス湖とチトニウス湖と間違つて弱つた程變つた有樣を呈してゐた．この邊一帶の色彩は反射鏡には青灰色，屈折鏡には綠色の強い灰色に見えた樣である．

北半球唯一の海たるアシダリウム海は，アントニアヂ氏の火星圖によれば恰も蟬の脱殼の如き形を示し，しかも南端に近く突出した2つの目（ニリアクス湖)を持つてゐる．併し今年のアシダリウムは特にヤクサルテス，タナイス兩運河が濃かつたので，頗る不安定な今にも東へ倒れさうな姿であつて，辛うじて太い二本のニロケラス運河によつて引つぱられてゐる……と云ふ感じがした．アシダリウム海の南方に接するニリアクス湖は南端の尖つた三角形に近い形態で，2つの突起は見えない．この湖とアシダリウム海の間のアチリスはシーイング良好の時に 20cm 以上の器械に明瞭に見られた．

ルナエ湖は接近の最初は東西に長い楕圓形だつたが，前田氏はこれが2つの點の集合と分離し，又接近の終に近く，この邊一帶(クサンテ方面)が恰も氾濫せる如く黑くなり，ルナエ湖が非常に大きく擴がつた樣に見られた．

再び南半球へ移つてエリスレウス海の南方に位するアルガイヤ大陸は望遠鏡裡には非常に青色が強くかゝつた白色の半圓形に輝き，丁度1935年度のヘラス

大陸を偲ばせた．これは砂漠地方の橙黃色や海と呼ばれる森林地帶の青灰色に對し眼の覺むる樣な鮮やかなコントラスを示してゐた．

運河――この地區の運河は殆んど全部太く所謂ロ１エル派のものは見られなかつた．只ニロケラスが二本に見え（但しダブル・キヤナルとは別）略並行してルナエ湖へ走つてゐた以外タナイス，ガンヂス，イスタ１等の比較的太い淡い運河が見えた．（未完）

神戸支部例會

昭和13年1月8日18時

神戸市元町四丁目　大丸食堂にて

〔第103頁より〕

決された．

1．會計報告がなされた結果，非常時物價騰貴等による經理運轉上の支障を補ふべく，明年度より會費の改正案が提出され，種々評議の後，贊成の動議あつて滿場一致可決せられ，（年額4圓）

2．理事欠員補充として，崔部進氏を滿場一致にて選出可決せらる．

かくて18時頃，會員一同食卓を圍むことゝなり，この時，會長演說に入り，山本會長により本協會の將來進むべき方針等の談話あり，やがて，有志は懇親晩餐會を開き，和氣は堂に滿ち，時の經つのも忘れた．茲に各々神戸支部の發展を祈念しつゝ，意義ある時局下の總會は盛宴裡に滯りなく，終了を告げて行つた．

附記：總會開催に當り，豫てより準備及び當日の庶務に盡力されし，神戸支部幹事の方々の御厚意に深く感謝致します．（事業部）